数値実験に関して少し訂正があります

実験2の住宅地の道路幅は4mでお願いします。すでに8mで計算が終わっているなら再計算は不要です。

実験4は、実験1の商業地をベースに排熱だけ実験2の住宅地と同じにしてください。商業地の排熱効果を評価します。

実験5は、実験1の緑比率だけ実験２の緑比率にしてください。商業地の緑比率効果を評価します。

実験6は、実験1の建物高さと道路幅と熱慣性だけ実験２と同じにしてください。キャノピー効果を見ます。

実験4から6は、順番が違っていても構いません。大事なことは、商業地の個別効果を見ることです。

多層モデルの計算をお願いします

初期時刻  日本時間の2014年8月3日午前６時

計算期間  72時間

場所 渋谷の緯度で

計算範囲は地上から上空3kmまで。

鉛直格子間隔は地上付近で2mくらい、上空ほど粗くする。

初期条件  地上温位は 28.4℃、相対湿度は72%で全層一定、温位傾倒は0.004℃/m

地衡風は西風で5m/s

**実験1 渋谷の駅前商業地**

建物階層平均10階建て、つまり平均高さ40m. オフィスビルは一階あたり4mで計算しました。

道路幅は8m。

人工排熱は日最大で150ワット、最小で15ワット。緑比率は5%

**実験２ 代々木上原駅周辺の住宅街**

建物平均高さ2.5階、平均高さ7.5m。住宅は一階あたり3.5mで計算しました。

道路幅は8m。

人工排熱は日最大で15ワット、最小で5ワット。

緑比率は10%

**実験3**

草地のみ

**実験4**

商業地で排熱と緑比率を住宅地と同じに。

**実験５**

商業地で排熱のみ住宅地と同じに。

作図1

地上気温の日変化

作図2

熱収支の日変化

作図３

地上から高度50mまでの気温鉛直分布図を3時間毎

作図４

全天日射量の日変化

作図５

地上から上空3kmまでの温位鉛直分布を6時間毎

図はできたらどんどん送ってください。

急ぎ、お願いします。

わからなかったらいつでもgooglehangoutできます。